

校長室だより **春日** (しゅんじつ)
校長 清武 直人

ぼくのお父さんは…

「ぼくのお父さんは、桃太郎というやつに殺されました。」

一方的な「めでたし、めでたし」を生まないために。広げよう、あなたがみている世界。



人の気持ちも知らないで！

「欠席0」「遅刻0」という輝かし記念日が、必ずきっと訪れるに違いないと、固く信じて頑張っているこの春日小学校に、インフルエンザがやって来ました。憎きインフルエンザめ！ 人の気持ちも知らないで。

インフルエンザのウイルスの子どもに「ぼくのお父さんは清武というやつに殺されました」って言われてもいい。インフルエンザの気持ちなんて考えることできません。手洗い、うがい、マスクで、徹底的にインフルエンザをやっつけましょう。

心のビタミン剤

「校長先生、あの子どもたちが国名オリンピックで満点取ることができたんですよ。」
「何でも器用にできる子どもたちではないんです。人一倍頑張ってきましたから、きっと大きな自信になると思います。」

教師は、子どもと共に歩んでいます。親が我が子に対して思うように、学級担任もいつも、この子にどこかで自信を持たせたいと思っています。一つの自信は、それ以外の多くのことを好転させることを、私たちは経験的に知っているからです。

子どもの成長を心から喜ぶ先生たちの言葉こそ、私の心のビタミン剤。

2013年度「新聞広告クリエイティブコンテスト」で最優秀賞を受賞した作品です。

昨年12月29日の新聞でこの作品を目にしたとき、心に衝撃を受けました。

私の中には、桃太郎はいつも正義であり、鬼は悪でした。そのことには間違いはないのですが、鬼の子ども視点で桃太郎の存在を考えたことはありませんでした。

一方的な「めでたし、めでたし」を生まないために。広げよう、あなたが見ている世界。

なんと鋭いメッセージでしょう。双方の立場に立って物事を眺め、考えるゆとりと習慣を持ちたいものです。

そうすれば、目的は同じでも手段が変わるかもしれない！

夫婦は話し方しだいで9割うまくいく

これは、今朝の新聞の書籍広告で目にした本のタイトルです。著者は、家庭教育研究所長の高橋愛子さん。

こんなことも書かれているそうです。

- ・不満を言いたいときのうまい話し方
- ・自分の願いを伝えたいときの話し方
- ・決して言うてはいけない12の言葉

やっぱり言葉は命。どのような世界においても！

